

株式会社エコ・プラン

項目	内容
<h2>1.企業情報</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：建設業 ● 事業概要：業務用空調メンテナンス、設置、EMS、PV工事を全国で施工。ZEBプランナー、エネマネ事業者を始め省エネ、創エネコンサルティングも実施 ● 事業規模：売上：7842百万円 拠点数：13拠点 従業員数：332人
<h2>2.削減目標案</h2>	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>【目標】 2030年までにSCOPE1,2を50.4%削減 2042年までにSCOPE1,2を100%削減</p> <p>【取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに全拠点の使用電力を再生可能エネルギーに切り替える。 （一部証書の可能性もあるが、できる限り証書に頼らない方針） ・三郷オフィスに太陽光発電および蓄電池を設置（2020年2月実施予定）。 ・2030年までにガソリン車以外の車両を、一部に導入する。 ・2042年までに、使用する全車両をガソリン車以外にすることと、ガス使用器具について電化を検討する。 <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>【目標】 2042年までに、顧客の72%に対して、自家消費用再エネ発電設備や、RE100に準拠した再エネ電力を導入してもらう。</p> <p>【取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客に対し、自社のSBT水準目標設定や再エネの取組を伝え、SBTの認知度を上げると共に、自家消費用再エネ発電設備の導入を提案し、難しい場合はRE100に準拠した再エネ発電の導入を促すことで、SCOPE3の9割を占めるカテゴリー11の削減に取り組む。 ・SCOPE3への影響は少ないが、購入先や協力業者に対してもGHG排出削減の取組を広め、可能な限りサポートしていく。 ・より高効率な設備の提案や、廃棄物の発生抑制、再資源化、バイオプラスチックの一部導入等、GHG排出削減に寄与する取り組みも進めていく。

株式会社エコ・プラン

項目	内容																											
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 																											
	<table border="1"> <caption>GHG Inventory Breakdown by Category</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Category 11</td><td>92.6%</td></tr> <tr><td>Category 1</td><td>7.0%</td></tr> <tr><td>Category 12</td><td>0%</td></tr> <tr><td>Category 10</td><td>0.2%</td></tr> <tr><td>Category 9</td><td>0.1%</td></tr> <tr><td>Category 8</td><td>0.1%</td></tr> <tr><td>Category 7</td><td>0%</td></tr> <tr><td>Category 6</td><td>0%</td></tr> <tr><td>Category 5</td><td>0%</td></tr> <tr><td>Category 4</td><td>0%</td></tr> <tr><td>Category 3</td><td>0%</td></tr> <tr><td>Category 2</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>		Category	Percentage	Category 11	92.6%	Category 1	7.0%	Category 12	0%	Category 10	0.2%	Category 9	0.1%	Category 8	0.1%	Category 7	0%	Category 6	0%	Category 5	0%	Category 4	0%	Category 3	0%	Category 2	0%
	Category	Percentage																										
Category 11	92.6%																											
Category 1	7.0%																											
Category 12	0%																											
Category 10	0.2%																											
Category 9	0.1%																											
Category 8	0.1%																											
Category 7	0%																											
Category 6	0%																											
Category 5	0%																											
Category 4	0%																											
Category 3	0%																											
Category 2	0%																											
<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 276.9 [tCO2] ● SCOPE2 : 174.6 [tCO2] ● SCOPE3 : 162,894[tCO2] 目標の対象セクター : カテゴリ11 <p>※支援事業にてScope1,2、カテゴリ1の算定を実施。他のカテゴリは自社にて算定</p>																												

株式会社エコ・プラン

項目	内容
<p>4.気候変動によるリスクと機会の分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 気温上昇に伴う夏場の作業員の熱中症発症リスクの高まりや、熱中症予防のための休憩時間の増加による作業効率の低下、体力消耗による交通事故リスクの増加や、暑さによる集中力の低下から発生するトラブル増加のリスク。 ● 台風などの災害による浸水等で倉庫やオフィスの浸水に伴う機器、部材破損被害や営業停止による損害が増加するリスク。 ● 北海道などエアコンがなかった地域の需要の増加や、レジリエンス対策として避難所へのエアコン設置の需要増加によるビジネス機会の創出。
<p>5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● GHG排出削減の取り組みは省エネ設備更新の需要につながる。 ● 顧客に対し自ら実施するGHG排出削減の取り組みを発信することは、信頼へとつながり、他中小企業への波及効果も大きくなり、社会全体としてのGHG排出削減へつなげることができると期待。 ● 中小企業の中で気候危機に積極的に取り組む企業として、企業イメージを確立する。 ● 気候変動に取り組む意欲的な企業とのビジネスチャンスの創出。 ● 優秀な人材の採用につなげる。

株式会社エコ・プラン

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 支援事業社様のご指導のもと担当者がSCOPE算定データを提出● 算定結果とSBT水準目標を、上司である役員に提案。● 上司から他の役員並びに代表取締役にて承認を得て設定。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● 2030年目標は使用電力を全て再エネ化しても達成せず、ガソリン由来の排出を削減する必要があるが、国内で商用バンのEVを生産しているメーカーがなく、海外メーカーも国内販売しておらず、現時点においてガソリン由来のGHG排出削減につながる手段がない。● 全拠点のうち3か所は電力が個別契約ではないため、容易に再エネに切り替えることができない。